

手芸倶楽部新聞

2014年
5月29日号
第11号



伊藤機能訓練指導員より

参加者の人数、取り組んで頂く作業メニューが増えてきました。作業の準備や進行がスムーズに行えるよう、努力していきます。

次回は六月十日(火)、地域交流室にて十五時より開催予定です。
ご家族もご参加いただけます。ぜひ、ご見学くださいね。

手芸のコツ

ポーチを作っていたとき、必ずご利用者様に、二十種類程端切れを用意してお見せし、どの布で縫うかを選んでいただきます。意思表示の少ない方でも、布の好みはちゃんと意思表示して下さい。場合がほとんどです。仕上げたとき「あら、いい柄ねえ」と褒められるとうれしいものですから、ぜひ選んでもらいたいよう。

こちらは全部一人の利用者様の作品です。柄を選んで作っていました。



新メニュー紹介

手芸倶楽部では作業がマンネリにならない様、新しいプログラムを順次用意しています。こちらは新プログラムの金魚ポーチです。市販品で流行っているデザインを真似して作りました。納涼祭のとき、皆お揃いで



持って行けたらいいな、と思っています。後は、靴下を再利用した猫のぬいぐるみと、チラシで作る紙の籠を準備しております。好きなものを選びます。



作品見本は、最新のものを、一階玄関横の掲示版に展示していますのでぜひ手に取ってご覧くださいませ。

第十一回の手芸倶楽部は二十三名のご参加を頂きました。ご家族も参加していただき、地域交流室が狭く感じるほど賑やかになりました。今回の造花は、可憐な洋種朝顔と、ミニひまわりが入荷。夏のアレンジを楽しんで頂きました。

お裁縫は、月二回の倶楽部内だけでは物足りないご利用者様もいらっしゃるので、四丁目三番地フロアにて、随時ミニ倶楽部を開催しています。まずはお問い合わせの上、ご見学くださいませ。

今回、六月以降用意している新プログラムの紹介もさせて頂いたいただきました。「あんぐるせん手芸」という、新聞広告チラシをより伏にしてお籠を編む手芸は、こより伏にするのが難しかったので、細長く畳んで使うようアレンジしています。ラッカ―塗料で仕上げると、紙製とは思えない立派な籠になります。さらに靴下で作るぬいぐるみ、金魚の形をした巾着作りもご用意しています。みなさんに見本をお見せすると顔がパツと明るくなるんです。手芸倶楽部では、「やってみてほしいなあ」と心から思うものをセレクトできるよう、引き出しを沢山用意しておりますので、ご参加をお待ちしております。



編集後記：右麻痺のあるご利用者様。皆で縫い物をしていると、時々覗きにきていらっしやいました。元気な時は縫い物されていた方なのですが、片手での縫い物は無理だろうと、私も勧めませんでした。ですが、ご本人がやってみてほしいとおっしゃいます。刺繍枠を使い、職員が右手役をして刺繍にトライ。フォトフレームに入れたらこんな素敵な額縁ができました。その人にあったプログラムを個々にご用意することをこれからも大事にしていこうと思います (平戸)

